



おうみ
映像ラボ

since 2014

BOOK

vol. 2 2015

うみ お映像ラボ BOOK

vol.2 2015

CONTENTS

平成27年度 おのみ映像ラボ 活動報告
滋賀の「くわ」・わや・わい
映像めぐらプロジェクト

3 — ラボ会・見聞会 vol.04
「高島の夏 迎え方・送り方」

5 — ラボ会・見聞会 vol.05 [共催]
「わわ湖高島・野鍛冶復活プロジェクト
ねはなしだ」

6 — 上映会 vol.02
「❀コフイルム発掘プロジェクト」

9 — 「❀コフイルム映像上映会」

10 — 遠足 vol.02
「甲賀の木挽きに参じに行け!」

13 — 「企画提案・共同開催」
滋賀の水の文化を探訪するツアー 安曇川編
「筏流しの神やあ・シロアチさんを訪ねる旅」



おのみ映像ラボ

おのみ映像ラボは、滋賀県内の伝統行事や生活記録が収められた映像を上映・発信していく団体です。滋賀を題材にした「記録映像」の情報収集・情報発信、見聞会、映像めぐらプロジェクトを通じて、滋賀県各地で情報収集し、滋賀県各地で情報収集・情報発信、見聞会、遠足、上映会」を行って再認識する、世代を超えた「ミユ二ティの場を創出していくます。

（ラボ会・見聞会）情報収集した映像を持ち寄り、その地で映像を視聴し、見聞を広める公開型の例会です。初見の映像を見ながら情報交換することが目的です。

（遠足）映像の撮影地を訪れ、その地で映像を視聴し、地域の方々・映像製作者・地域文化と出会う企画です。

（上映会）参加者を募り、映像を上映し、その映像について語り合いつつ上映会です。

〈メハバ〉長岡野亞

大原歩

大藤寛子

藤野ひろ美

平成27年度滋賀県「美の滋賀」創造事業 地域の元気創造・暮らしアート事業 平成27年度文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業



『古屋六斎念佛踊』

2004年制作 / 22分35秒
制作：朽木村教育委員会

滋賀県高島市朽木古屋(ふねや)に伝わる六斎念佛踊の記録映像。滋賀県トでも数少ない民俗芸能として、平成10年に滋賀県選択無形民俗文化財に選定され、魅力的な音色と踊りが受け継がれています。卦幕解説あり。

00:00 家を参る様子
00:44 先念佛
02:24 ニゴノマイ

05:32 ウチアゲ
06:27 ロクダン
09:50 後念佛

13:33 古屋玉泉寺
14:00 先念佛

15:33 オヒヒヤル
19:35 オヒヒヤル



山本晃子さんの解説



2015年8月30日(土)
会場 安曇川公民館(高島市)
ゲスト 山本晃子さん
(高島市教育委員会文化財課参事)
協力 高島市教育委員会・文化財課
成安造形大学附属近江学研究所

【ラボ会・見聞会 vol.04】— 高島の夏 迎え方・送り方・送り方・送り方

滋賀県高島市のお盆行事の映像を高島市教育委員会の山本晃子さんによる解説を交え、ご覧いただきました。

上映作品は5点。高島市朽木古屋(ふねや)で踊られてきた「六斎念佛踊」の記録、高島市武曾横山でのお盆行事「オショライサン」の記録、また参加者の持ち込み映像として「京都・嵯峨野六斎念佛」「大津市真野の六斎念佛」「朽木古屋の河原仏」を上映。ひとつり残っている風習に関心がある方、たまたまチラシを見て来ました、というお近くの方々とともにじっくり見入ったり歓声を上げ拍手したり、お互いの地域行事について質問しあい、映像を通して「生活の中にあったもの・消えかけているもの」を話す場となりました。撮影された当時から幾年か経ち、行事の内容が変化し、途絶えたものもあります。高島市朽木古屋の六斎念佛踊は近年開催されていませんでしたが、何らかの形で継承できないかとアーティストを交えての取り組みが『朽木の知恵と技発見・復活プロジェクト』(<https://www.facebook.com/kutsukichiewaza/>) にむけに進んでいます。

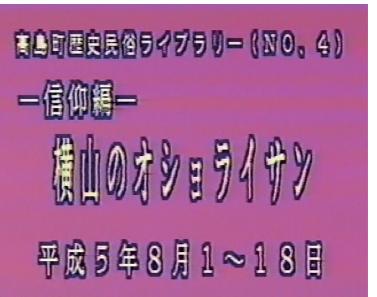


00:00 家を参る様子
00:44 先念佛
02:24 ニゴノマイ

05:32 ウチアゲ
06:27 ロクダン
09:50 後念佛

13:33 古屋玉泉寺
14:00 先念佛

15:33 オヒヒヤル
19:35 オヒヒヤル



『横山のオシヨライサン』

1993年制作／26分10秒

制作・高島町文化協会民眞ク

ラブ

滋賀県高島市武曾横山の地域に引き継がれるお盆行事の記録映像。「高島町歴史民俗ライブラリー—信仰編（NO.4）」として制作されました。天台宗である横山大清寺の檀家さんのお盆行事の様子を、日を追って記録しています。

8月7日清墓、仏具磨き、墓参り、13日精進料理、オシヨライサン迎え、お上人さん参り、オシヨライサン送り、盆踊り、施餓鬼供養、ご詠歌などがナレーション付きで解説されています。



『嵯峨野六斎念仏』

2009年制作／1時間24分

制作・京都・嵯峨野六斎念仏保存会

2009年8月23日に嵯峨野阿弥陀寺の本堂で奉納された、京都・嵯峨野六斎念仏保存会の映像。保存会の人数は多く、年齢層も幅広い。観客に向けて魅せる「芸能六斎」として演目には迫力があり、観客に向け魅せる要素が多く見られます。

嵯峨野六斎念仏保存会
<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/ky-sagan/>



『真野の六斎念仏』

2014年撮影／約10分

撮影・加藤賢治

成安造形大学附属近江学研究所研究員の加藤賢治さんのフィールド研究資料映像。大津市真野地区で8月14日に行われる六斎念仏。真野地区では、1チーム6人で踊る。現在4チームあり、若者から重鎮まで、幅広い年齢層で行われています。（未編集映像）

嵯峨野六斎念仏保存会
<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/ky-sagan/>



『古屋の河原仏』

2015年撮影／約35分

撮影・大原歩

高島市朽木の針畠川流域にて盆行事のひとつとして行なわれる「河原仏」ができるまでの映像記録。朽木古屋集落にて撮影。8月15日朝、家ごとに針畠川に集まり、石を集め彼岸の島をつくり六体地蔵をつくります。川岸と六体地蔵のいる彼岸との間に石橋を渡し、地蔵の周りにはミンギハなどの盆花が手向けられ、ご先祖を弔います。古屋では14日の夜に六斎念仏踊が開催されました。

おうみ映像ラボメンバー・成安造形大学近江学研究所研究員の大原のフィールド研究資料映像。（未編集映像）



【ラボ会・見聞会 vol.05】共催

—びわ湖高島・野鍛冶復活プロジェクト　おはなし会

2016年1月24日（日）

日 会 場 新旭公民館（高島市）
主 催 びわ湖高島・野鍛冶復活プロジェクト
共 催 おうみ映像ラボ
協 力 成安造形大学附属近江学研究所



2014年撮影／約20分

撮影・大原歩

協力・鍛冶大鐵工

滋賀県高島市新旭町熊野本の辻沢地区で1992年まで操業されていた野鍛冶建物・小島兄弟工場（けいていこく）をもう一度復活させたいと、「びわ湖高島・野鍛冶復活プロジェクト」が立ち上がりました。最初に、プロジェクト立ち上げの経緯について、また工場に残っていた当時の大幅帳で『屋号はカネコ、正式名は「農具専門小島兄弟工場』と代々、兄弟で経営されていたことや、使われていた看板を発見したことなど、これまでの様子をメンバーが話した後、京都・亀岡「片井鉄

びわ湖高島・野鍛冶復活プロジェクト
<https://www.facebook.com/takashimanokaji/>

工所」が地域ぐるみで野鍛冶に触れられる場所となつてている様子が松井禎子さんの写真とともに紹介されました。

次に滋賀県野洲市の鍛冶大鐵工の西川征一さんの『先掛け（さつけ）仕事』の記録映像をご覧いただきました。このプロジェクトに関わる人たちの熱い思いがほとばしり、とても寒い日でした。会場はとても熱い場となりました。

2014年撮影／約20分

撮影・大原歩

協力・鍛冶大鐵工

滋賀県野洲市の西川さんによる「先掛け仕事」の記録映像。田畠仕事で刃先がすり減ったスキ先の手入れ作業「先掛け」を取材した際の記録映像。刃金のワカシづけ、水打ち、削り出し、焼き入れの一連の作業が記録されている。おうみ映像ラボメンバ！

成安造形大学近江学研究所研究員の大原のフィールド研究資料映像。（未編集映像）



【上映会 vol.02】

— 8ミリフィルム映像上映会 —

日 2015年12月5日（土）
会場 東近江市能登川博物館 集会ホール（東近江市）
ゲスト 8ミリフィルム提供者の皆さん
松本篤さん（NPO法人記録と表現とメディアのための組織（remo）研究員）
杉浦隆支さん（東近江市能登川博物館学芸員）

共 催 東近江市能登川博物館

昭和30～50年代にかけて家庭用に普及した「8ミリフィルム」。高度経済成長期と重なる、8ミリフィルムが撮られた暮らしの変革期に、滋賀の家族の暮らしづらはどのようなものだったでしょうか？



能登川博物館所蔵の「伊庭坂下し祭り」や「能登川の江州音頭『納涼大踊り会』」、また彦根の千代神社、多賀の松茸狩り、信楽の家族の風景など、ご提供いただいた滋賀県内で撮影された8ミリフィルムを合わせて15点お披露目しました。

ゲストには、パーソナルな記録物の潜在的価値を探求する「NPO法人記録と表現とメディアのための組織（remo）」研究員の松本篤さんをお招きし、プライベートな家族の日常の背景に映る「バブリックな情景」について、全国各地で実施されている活動を紹介しながらお話をいただきました。また、東近江市能登川博物館学芸員の杉浦隆支さんは、能登川博物館所蔵の8ミリフィルム映像について解説していました



だきました。

その後、滋賀県内で撮影された8ミリフィルムの提供者の皆さんに登場いたとき、いつ・誰が・どのように撮影されたのか、お話を伺いながらフィルムを上映しました。

びりびりに障子が破られた部屋の中で楽しそうに遊んでいる子ども達の様子、山の中で松茸狩りをして、そこですき焼きにして楽しむ様子…。カメラを手にしていた人の気持ちが映像に映っている人や景色に反映されて、見ているこちら側に伝わって来る気がしました。また、木造小学校が映つていて、自分の遠い記憶を思い出す。それを言葉に出して、初対面の参加者同士の話が弾む。上映会場では滋賀の風景を共有しながら、いつのまにか交流が生まれていました。



『伊庭坂下し祭り』

1970年頃撮影／36分

撮影・個人

所蔵・東近江市能登川博物館
毎年5月に東近江市伊庭町の繖峰三神社で実施され

ている「伊庭坂下し祭り」は、800年以上も続くお祭りです。近江の奇祭と呼ばれ、三基の神輿を氏子の若衆が引きずり降ろす、迫力溢れる神事として、滋賀県選択無形文化財に指定されています。この映像は、昭和40年代に記録用として作成された8ミリフィルムで、祭りの準備から当日の神事の状況をナレーション入りで記録されています。

『能登川共盛会毎月8日びっくり市、江州音頭』

1970年頃撮影／19分

撮影・個人

所蔵・東近江市能登川博物館
滋賀県下のトップを切って

てじる「伊庭坂下し祭り」は、800年以上も続くお祭りです。近江の奇祭と呼ばれ、三基の神輿を氏子の若衆が引きずり降ろす、迫力溢れる神事として、滋賀県選択無形文化財に指定されています。この映像は、昭和40年代に記録用として作成された8ミリフィルムで、祭りの準備から当日の神事の状況をナレーション入りで記録されています。

『千代神社のお祭り』

1970年頃撮影／約8分

所蔵・宮田法子さん

昭和40前半の頃、彦根の千代神社の春祭りでの稚児行列

の様子です。きれいな着物を着て化粧をし、お姫様のような冠をかぶつての行列で、とても嬉しかったのを記憶しております。父が行列に付き添っているときは、母が撮影していました。今は、亡き懐かしい方々も映っている様子に庶民が撮ったフィルムの貴重さがうかがえます。（宮田法子）

『家族の風景』

1973年頃撮影／約30分

所蔵・宇田安利さん

昭和43年頃、甲賀市信楽町。

安利さんの伯父により愛情たっぷりに撮影されている。安利さんの1～3歳ぐらいまでの様子。家の前でお姉さん、近所のお姉さん、お盆やお正月に帰省した従妹たちと遊んでいる様子。家で飼っていた鶏と遊んでいる様子、びりびりに障子が破られた部屋の中で楽しそうに遊んでいる子ども達の様子。叔母の結婚の荷出しや、結婚式の様子などが記録されています。





8ミリフィルムを上映するまで

- ① おうみ映像ラボまでお問い合わせください。
映像の内容がわからなくても、
お気軽にお問い合わせください！
- ② ご提供いただく8ミリフィルムを試写する。
- ③ ご承諾いただいた方のみ、
みんなが寄り合える上映会で鑑賞します。

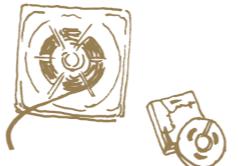
【8ミリフィルム発掘プロジェクト】

今年度からはじまった「8ミリフィルム発掘プロジェクト」。高度成長期と重なる8ミリフィルムが撮られた暮らしの変革期に、滋賀の家族の暮らしはどうなものだったでしょうか? 8ミリフィルムの映像に映し出される思い出と、その背景に映りこむ時代の風景を読み解きたいと、スタートしました。情報を募り、信楽・高島・能登川・彦根など の映像と出会うことができました。また、8ミリフィルム映像を多く所蔵している能登川博物館とともに、共催での上映会を開催しました。

そして、この取り組みを知り、ご自宅で眠っていた映写機や貴重な8ミリカメラを寄贈いただき、出張上映会を行うことができました。

『運動会』
1979年撮影／約30分
所蔵：個人

映っていたのは昭和54年に撮影された高島市安曇川町藤江区の運動会の様子。「ともちゃんやー！」
「この人、さっきから足速いなあ！」
「こんなにたくさん人が住んでたんやなあ」「今的小学校の人数は90人ぐらいかな。」
上映会に来られたご近所のおじいさんや小学生のみなさんと話に花が咲きました。



【8ミリフィルム発掘プロジェクト】

今年度からはじまった「8ミリフィルム発掘プロジェクト」。高度成長期と重なる8ミリフィルムが撮られた暮らしの変革期に、滋賀の家族の暮らしはどうなものだったのでしょうか? 8ミリフィルムの映像に映し出される思い出と、その背景に映りこむ時代の風景を読み解きたいと、スタートしました。情報を募り、信楽・高島・能登川・彦根などの映像と出会うことができました。また、8ミリフィルム映像を多く所蔵している能登川博物館とともに、共催での上映会を開催しました。

そして、この取り組みを知り、ご自宅で眠っていた映写機や貴重な8ミリカメラを寄贈いただき、出張上映会を行うことができました。

1960年撮影／約23分
所蔵：個人

昭和35年に多賀町にて撮影された映像です。京都からのお客さんを松茸でもてなした様子。撮影はお客様さんが撮られ、「都会の人」が見た田舎という構図となっています。犬上川の橋が大雨によって陥落し、その上を木材を乗せた荷馬車が通る様子、当時の彦根城のお堀の様子や柿採りの風景をることができます。また、多賀大社や河内の風穴に観光に行つた様子が記録されています。

1979年撮影／約30分
所蔵：個人

昭和54年に撮影された安曇川町藤江区の運動会の様子が記録されています。素走り、綱引きなどの競技の他、お昼休憩で家族が楽しそうにお弁当を食べている様子、現在も残っている木材屋さんの建物、当時の車が映り込んでいます。応援している人など映っている人の数がとても多く、現在は住んでいる人が少なくなったことが分かりました。

1973年撮影／約30分
撮影：個人
所蔵：東近江市能登川博物館

東近江市内で不動産会社を経営しておられた方より博物館へ提供された8ミリ映像。社内旅行で大分へ行った時の様子が記録されています。



『松茸狩り』

『運動会』

『九州会社慰安旅行ほか』

【遠足 vol.02】—甲賀の木挽きに会いに行こう



2015年10月18日（日）
会場
甲南ふれあいの館（甲賀市）
重要有形民俗文化財として「近江甲賀の前挽鋸製造用具及び製品」が指定されました。北は樺太・北海道、

ナビゲーター

長峰透さん（甲賀市教育委員会事務局歴史文化財課参事）

田中新治郎さん（元木挽職人）

2015年、滋賀県で初めて国の重要有形民俗文化財として「近江甲賀の前挽鋸製造用具及び製品」が指

定されました。北は樺太・北海道、

南は台湾・マニラにまで販売された優良な前挽鋸が製造・流通・使用さ

れてきた甲賀市柏川沿いの甲南地域

を訪ねました。

甲賀の前挽鋸の製造用具資料一式が収蔵・展示されている「甲南ふれ

あいの館」。甲南町教育委員会にて総合調査が行われ、その一環として、製造行程と使用方法の映像記録が撮影されました。

上映作品
・『甲賀前挽鋸』 26分

・『甲賀の木挽』 16分

制作
甲南町教育委員会

09：40
甲南駅 参加者集合

10：00
甲南ふれあいの館 到着
開会のあいせつ

10：10
「甲賀の前挽鋸について」展示

11：00
見学・長峰さんのお話
映像上映（和室にて）

12：00
昼食「甲賀のお弁当」

甲賀特別メニュー

甲賀産米・水口かんびょうと葱の酢味噌

和え、海老豆、近江八幡の丁子麺と赤コンニャク、水田ナスのお漬物、イチジクの水

煮、甲賀のお茶

田中新治郎さんのお話・木挽の実演・木挽体験

14：30
長峰さんと歩く甲南

深川～森尻・矢川神社～深川

市場～甲南駅

16：00
甲南駅前にて 解散



後は甲賀産食材の特別メニュー弁当を食べながら、参加者の皆さんと交流。午後からは、地元で木挽職人をされていた田中新治郎さんに丸太を挽く実演をいただき、参加者も体験。丸太一本割る作業に約4時間かかりました。途中、散策グループに分かれ、長峰さんと一緒に、甲南町の前挽鋸製造地の名残や、歴史的名所、伊勢街道を訪ね歩きました。



『甲賀前挽鋸』

1997年制作／26分

制作・甲南町教育委員会

前挽鋸の作り方がわかる記録映像。元前挽鋸鍛冶今村謙治氏（故人）による前挽鋸製造工程が再現されています。

撮影時には、作業部屋を復元し60年ぶりに「透き」の作業が行われました。「透き」を専門に行う職人は、基本「歯焼き」作業は行わないが、今村さんは全工程を行う貴重な職人で、全工程の撮影を行うことができました。

材料の鋼（はがね）をうちノコギリの形に抜く「背抜き」。クレと呼ばれる鉄製のノコギリ歯を打ちぬく「歯落し」。ノコギリ歯をカッタで削り生成する「透き」。刃先に火を入れ強める「歯焼き」。

部分を接着させる「首接ぎ」。

斧やノコギリ、楔を使用して木を切り落とす「伐木」。

切り落とした木の「真」を見定めノコギリで丸太にする「玉切（たまきり）」。この作業が一番難しいといわれる丸太から材をとる「木取り」のための墨壺を使い線をひく「墨つけ」。前挽鋸を使い材にする「挽割（ひきわり）」。



墨つけをする田中さん



『甲賀の木挽』

1997年制作／16分

制作・甲南町教育委員会

木挽職人の技術がわかる記録映像。元木挽職人田中新治

氏による立木の伐採から製造工程が再現されています。

撮影時には、作業部屋を復元し60年ぶりに「透き」の作業が行われました。「透き」を専門に行う職人は、基本「歯

焼き」作業は行わないが、今

村さんは全工程を行う貴重な職人で、全工程の撮影を行うことができました。

材料の鋼（はがね）をうち

ノコギリ歯を打ちぬく「歯落

し」。ノコギリ歯をカッタで削

り生成する「透き」。刃先に

火を入れ強める「歯焼き」。

部分を接着させる「首接ぎ」。

斧やノコギリ、楔を使用して木を切り落とす「伐木」。

切り落とした木の「真」を見定めノコギリで丸太にする「玉切（たまきり）」。この作業が一番難しいといわれる丸太から材をとる「木取り」のための墨壺を使い線をひく「墨つけ」。前挽鋸を使い材にする「挽割（ひきわり）」。

墨つけをする田中さん



長峰さんと歩く甲南

田中さんの実演や前挽鋸の体験をした後、前挽鋸木挽チームと分かれ、長峰さんのナビゲーターで「甲南ふれあいの館」周辺の甲賀前挽鋸が製造・流通されてきた街並みを巡りました。



浄福寺から見渡す甲南の風景



浄福寺「田中安右衛門の慰靈碑
天保一揆で捕らえられ江戸送りの途中で亡くなった農民を慰める碑」



仙川の支流、砂川沿いにあるく



森尻の矢川神社。甲賀衆の産土神がまつられる。天保一揆でも役割を果たした



鋸鍛冶屋さんのお宅。鍛冶屋の神社「稻荷神社」が自宅横にまつら
れているのがみえる



左が仙街道、右が伊賀街道



「企画提案・共同主催」「美の滋賀」探訪バスツアー～美の宝庫・滋賀の魅力に出会う旅～ 滋賀の水の文化を探訪するツアー 安曇川編 「筏流しの神さま・シコブチさんを訪ねる旅」



日 2015年11月21日（土）
旅行企画・実施 近江トラベル株式会社
企画提案・共同主催 おうみ映像ラボ
(担当 大藤寛子)

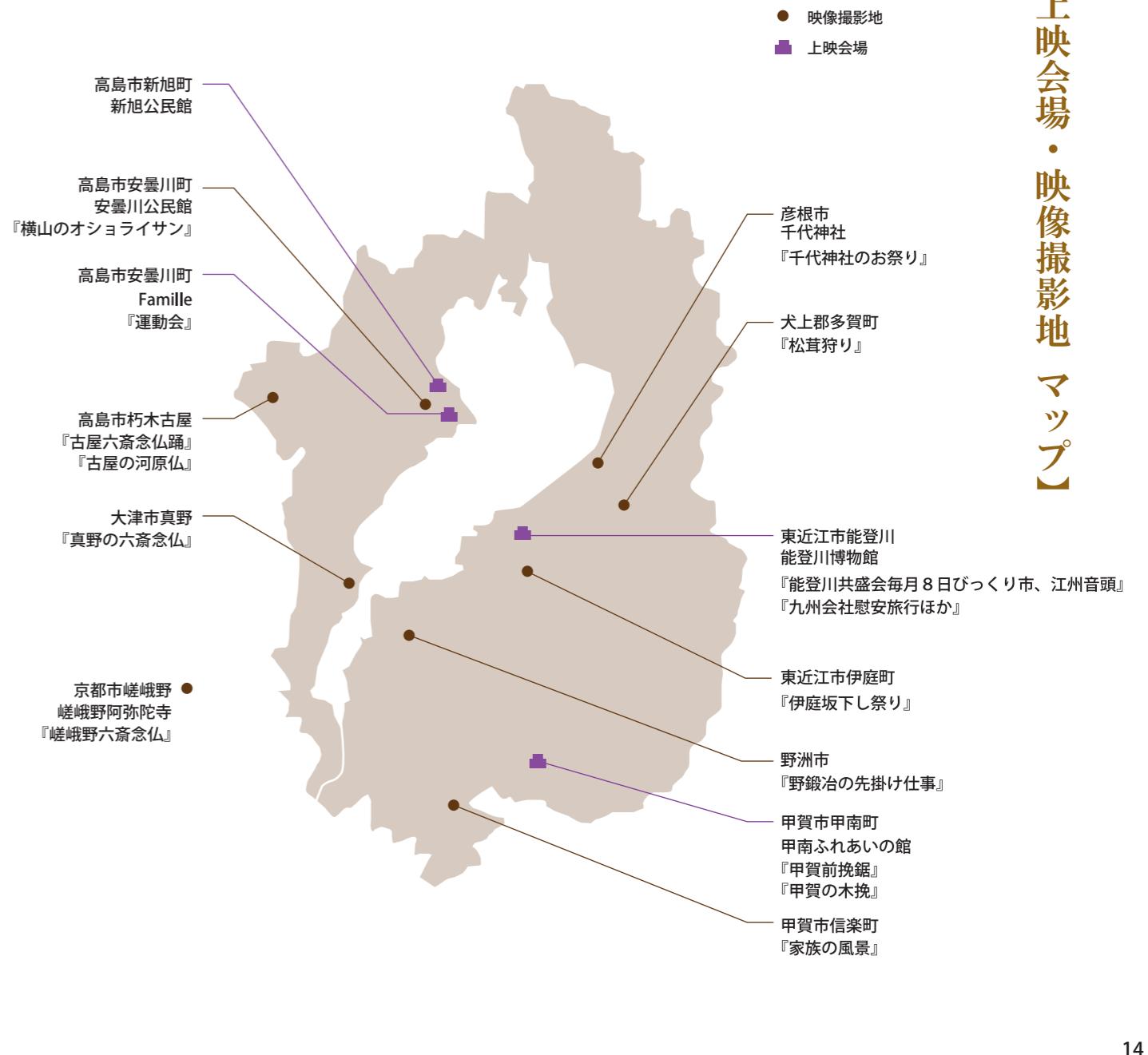
ナビゲーター
白井忠雄さん
(高島歴史民俗資料館学芸員)
スケジュール
JR堅田駅 集合（バスにて移動）
葛川鬼障明王院／地主神社
梅ノ木・志子瀬神社
久多・志古瀬神社
「鮒寿司工房みうら」のお弁当で昼食
久多在住の常本治さんより神社や花笠
踊のお話

安曇川水系の山の木材は、古代
より筏のかたちで川を運ばれ、奈
良や京都の都づくりに使われてき
ました。筏流しは危険な仕事のた
め、無事に終えることを願つて、
川の魔物を取り除く神さま「シコ
ブチ神」が誕生し、安曇川水系に
は十数社の神社が点在、人々の間
で信仰されてきました。シコブチ
の漢字が各地で少しづつ違う点も
興味深いです。

今回のツアーでは、安曇川上流
から下流に向けて、秋の紅葉を楽し
みながら、山と川の恵みを生か
した生活、そして水に対する信仰
の美に触れる旅となりました。

中野・思子淵神社
岩瀬・志子淵神社
平良・思子淵神社
JR安曇川駅
JR堅田駅にて解散

【上映会場・映像撮影地 マップ】



おうみ映像ラボ BOOK vol.2 2015

2016年2月28日発行

企画・制作・発行／おうみ映像ラボ
デザイン／大原歩
写真撮影／金東薫、植田翔太、
おうみ映像ラボ
お問い合わせ／
omieizo_lab@yahoo.co.jp

文化庁
Agora for Cultural Affairs
平成27年度滋賀県「美の滋賀」創造事業地
域の元気創造・暮らしぶるアート事業
平成27年度 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業
文化で滋賀を元気に!
お問い合わせ
omieizo_lab@yahoo.co.jp



[おうみ映像ラボの活動にご注目ください]

facebook
www.facebook.com/omieizo.lab
Twitter
https://twitter.com/omieizo_lab

ご協力いただいた皆さま（順不同）

高島市教育委員会
嵯峨野六斎念仏保存会
成安造形大学附属近江学研究所
びわ湖高島・野鍛冶復活プロジェクト
東近江市能登川博物館 Famille
甲賀市教育委員会 甲南ふれあいの館
近江トラベル株式会社
びわ湖ワーケス 高島歴史民俗資料館
山本晃子さん 加藤賢治さん
松本篤さん 杉浦隆支さん
宇田安利さん 宮田法子さん
田中新治郎さん 長峰透さん
白井忠雄さん 常本治さん
金東薫さん 植田翔太さん



おうみ映像ラボ BOOK | 2015(平成27)年度活動報告
表紙 | 東近江市「能登川博物館」にて |撮影 金東薰
裏表紙 | 甲賀市「甲南ふれあいの館」にて |撮影 植田翔太